

The role of the retinal nerve fiber layer thickness on OCT in the evaluation of papillitis in childhood uveitis: Evaluating papillitis in pediatric uveitis using OCT-RNFL

Carlyn V Kouwenberg, Laurens A Blom, Suzanne C Vellinga, Irem Bozkir, Joke H de Boer, Viera Koopman-Kalinina Ayuso

Am J Ophthalmol. 2023 May 4;S0002-9394(23)00199-X.

doi: 10.1016/j.ajo.2023.05.006.

乳頭炎は小児ぶどう膜炎の約 3 分の 1 にみられる所見ですが、眼底検査のみでの診断は難しく、フルオレセイン造影（FA）検査は小児では施行しづらく侵襲的であるため、それらに代わる検査としての OCT の有用性について検討した報告です。OCT の網膜神経線維厚（OCT-RNFL）測定と FA 検査を共に施行した 93 例 167 眼について検討した結果、OCT-RNFL130 μ m をカットオフ値とした場合の乳頭炎の検出率は感度 79%、特異度 85%であったとのこと。FA を施行していない集団も含めた 257 例 455 眼の小児ぶどう膜炎でさらに検討したところ、OCT-RNFL 値が 130 μ m を超える症例は約 1/3 を占め、中間部ぶどう膜炎や後部ぶどう膜炎で頻度が高かったこと、嚢胞様黄斑浮腫や活動性のぶどう膜炎や眼底所見での乳頭腫脹が多くみられたことなどが報告されています。眼底検査のみで視神経乳頭所見を読み解くのは難しく、所見がないようにみえても FA 検査を行うと視神経乳頭からの漏出がみられることがあります。この報告を参考に、小児や散瞳不良の症例でも非侵襲的で経時的に施行できる OCT 検査を実臨床で積極的に活用していきたいと思います。

（文責： 近畿大学 岩橋 千春）